



みうら・しおみ

2014年東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻卒業。歯科衛生士資格取得。卒業後、神奈川県庁に入庁。厚木保健福祉事務所にて勤務後、2017年より現職。「神奈川県歯及び口腔の健康づくり推進条例」および「神奈川県歯及び口腔の健康づくり推進計画」に基づき、ライフステージなどに応じた県民の歯と口腔の健康づくりを推進している。

卒業生の今 活躍する医科歯科人

多角的に歯科口腔保健を考え 神奈川県民に寄り添いたい

神奈川県 保健福祉局保健医療部
健康増進課 技師

三浦汐美氏
Shiomi Miura

2014年に歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻を卒業した三浦汐美さんは、歯科衛生士の資格を生かして神奈川県庁に勤務している。歯科衛生士の進路は歯科医院がもつとも多いが、三浦さんは在学中から行政の仕事に進みたいと考えていたという。

「大学時代、白田千代子先生の授業で歯科衛生士が行政分野で活躍できることを知り、興味を持ちました。白田先生は長きにわたり中野区で歯科衛生士として勤務していた経歴があったので、そこで実習にも参加させていただきました」

入庁してから3年

間は、厚木保健福祉事務所に勤務。管轄する5つの市町村へ専門的かつ技術的な歯科保健支援を行った。

「行政の仕事を志望したのは、住民の皆さんへ歯科保健の視点から寄り添い、支援したかったからです。なので、自ら地域の皆さんに働きかけることのできる保健福祉事務所の仕事は、日々やりがいを感じていました」



2017年4月には本庁の健康増進課に異動になった。こちらは神奈川県庁の歯科保健に係る条例や計画に基づいて施策を展開していく部署であるため、今までのように住民と対面して実施する業務はほとんどない。

「今の部署では、常に国の動きや県全域に目を向けて、あらゆる視点から歯科保健を考えることが求められていると感じます。保健福祉事務所とは異なる視点に立っているのですが、最初は戸惑いましたが、異動してから『県民が主役』という気持ちにより強くなりました」

振り返ると、東京医科歯科大学で学んだことが現在に直結していると感じる。

「大学では、歯科衛生士の知識、技術だけでなく、社会背景に基づいた学びが多かったので、とても役に立っています」

広い視野で神奈川県全体を見ることが様々な課題に気づいてきたという三浦さん。これからも神奈川県民に寄り添って仕事をしたいと目を輝かせている。

B



神奈川県庁 神奈川県横浜市中区日本大通1 <http://www.pref.kanagawa.jp/>

【基本データ】面積：2,415.81平方キロメートル 人口：9,126,214人(平成27年度国勢調査より)

※都道府県別の人口は全国第2位、人口密度は全国第3位

神奈川県庁は横浜市の関内地区の官庁街、日本大通りにある。本庁舎は、関東大震災後の1928(昭和3)年10月に建てられた。現在は、登録有形文化財となっており、横浜を代表する建築物として数えられる。鉄筋コンクリート造り地上5階地下1階建てで、その中央部は「キングの塔」と呼ばれる。(写真は新庁舎)